

キンケクチブトゾウムシの発生と防除

キンケクチブトゾウムシ *Otiorhynchus sulcatus* (Fabricius) はヨーロッパ、北アメリカ、オーストラリアなどに分布し、イチゴ、ブドウ、シクラメンなどを加害する重要な害虫として知られている。

わが国では、昭和56年に静岡県ではじめて発生が確認された。その後、6都府県でも発生が確認されたため、植物防疫所と発生都府県は直ちに防除を実施した結果、現在では静岡県、長野県の極く一部のほ場で発生が認められているが、他の地域では発生が認められていない。

本虫の発生の経緯と防除の概要については、本誌5号と7号で紹介しているが、その後の状況を紹介する。

発見の経緯と発生調査 55年に静岡県駿東郡小山町の農場でシクラメンの生育遅延・葉の萎れなどを示す異常株が発生した。これらの鉢を調査したところ、1鉢当たり10頭近くの幼虫が土の中から発見された。幼虫は静岡県農業試験場で飼育された後、横浜植物防疫所で同定した結果キンケクチブトゾウムシであることが判明した。

このため、名古屋植物防疫所と静岡県が中心となって、綿密な発生調査を行ったところ、本虫は同農場の温室内のシクラメンのほか、野外のピラカンサ、コトネアスター、ヒメスイバ(雑草)などからも発見された。

同農場からはシクラメン、ピラカンサ、コトネアスターなどの植物が相当数全国に出荷されてい

たことから、農林水産省植物防疫課は本虫の発生調査を各都道府県に依頼した。

その結果、東京都、神奈川県、静岡県、大阪府、兵庫県、広島県の13ヶ所で発生が確認された。

さらに、58年から59年にかけて長野県内の3ヶ所、静岡県内の1ヶ所で新たに発生が確認された。



キンケクチブトゾウムシ

防除と防除効果 発生調査の結果、本虫の寄生が確認された植物を全て廃棄するとともに、発生ほ場にはD-D剤などの土壌かん注とサリチオン剤などの土壌散布を併用した防除を実施した。

防除は防除効果の確認調査を兼ねて、県・病害虫防除所・試験場及び生産者などの理解と協力を得て定期的に行なわれた。

その結果、ほとんどの発生地で本虫の発生が認められなくなったが、静岡県の2ヶ所、長野県の3ヶ所については依然として発生が認められたことから、農林水産省は、59年度これらのほ場を対象に防除事業を実施した。

現在では静岡県(小山町)、長野県(辰野町)の極めて限られたほ場で、散発的に本虫の発生が認められているが、それら以外の地域では全く発生が認め

られなくなった。このことから小山町と辰野町以外の地域では本虫は根絶できたものと考えられる。

今なお発生が認められている2ヶ所については、今後もなお防除を継続していくことにしている。



発生調査